



ROM モニタでのコンフィギュレーションファイルの管理

この章では、ルータのコンフィギュレーションファイルの管理についての情報を提供します。

- [コンフィギュレーションファイルについての情報, 1 ページ](#)
- [代替管理コンフィギュレーションの指定, 2 ページ](#)
- [代替 SDR コンフィギュレーションの指定, 8 ページ](#)
- [コンフィギュレーションファイルの代替の保管場所の指定, 16 ページ](#)
- [その他の関連資料, 19 ページ](#)

コンフィギュレーションファイルについての情報

Cisco IOS XR ソフトウェアは、2種類のコンフィギュレーションファイル、管理コンフィギュレーションファイルおよびデフォルトのセキュアドメインルータ（SDR）のコンフィギュレーションファイルを作成します。これらのコンフィギュレーションファイルは、次の場所に格納されます。

- RSP に格納され、SDR 名およびノードインベントリなどの項目のシステム全体のコンフィギュレーションを含む管理コンフィギュレーションファイルは1つだけ存在します。
- ルーティング、インターフェイス、SDR ユーザ名、および他の SDR 固有のコンフィギュレーション用のパラメータを指定するために RSP に格納されている、Cisco ASR 9000 シリーズルータの SDR コンフィギュレーションファイルは1つだけ存在します。

Cisco ASR 9000 シリーズルータには、SDR（デフォルト SDR）が1つだけ含まれています。Cisco IOS XR ソフトウェアでは、SDR は、単一の物理システムを論理的に分けられた複数のルータに分割する方法です。Cisco ASR 9000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータは、シェルフにつき1つの SDR だけをサポートする単一のシェルフルータです。

SDR および管理プレーン コンフィギュレーションの詳細については、『Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Management Configuration Guide』の「Configuring Secure Domain Routers on Cisco IOS XR Software」モジュールを参照してください。

ここでは、ROM モニタからのコンフィギュレーション ファイルの使用を管理する方法について説明します。



注意

ほとんどの状況では、デフォルト コンフィギュレーションで十分です。次の項で説明するオプションは、別のコンフィギュレーションが必要なまれなケースです。これらのオプションを使用すると、システム エラーまたはダウンタイムが発生する可能性があります。これらのオプションを使用する前にシスコのテクニカル サポートに問い合わせてください。

代替管理コンフィギュレーションの指定

管理コンフィギュレーションには、システム全体の SDR 名やノードインベントリなど、システム全体のコンフィギュレーションが保存されます。これは、ルーティングおよびインターフェイスのコンフィギュレーションを保存するデフォルト SDR コンフィギュレーションとは異なります。



注意

ほとんどの状況では、デフォルトでコミットされた管理コンフィギュレーションで十分です。この項で説明するオプションは、代替管理コンフィギュレーションが必要なまれなケースです。この方法を使用すると、システム エラーまたはダウンタイムが発生する可能性があります。

-o ブート オプションを使用した一時的な代替管理設定の指定 -o ブート オプション

-o ブート オプションを使用したこの管理コンフィギュレーションモードは、本質的には一時的です。このブート オプションを設定すると、このモードでは、ルータはこの代替コンフィギュレーションからブートできます。またこのコンフィギュレーション ファイルで指定されたコンフィギュレーションは実行コンフィギュレーションと永続的なコンフィギュレーションの一部になります。



(注)

-o オプションで指定された外部コンフィギュレーションでルータをブートすると、システムではデフォルト コンフィギュレーションが失われます。デフォルト コンフィギュレーションは、この代替コンフィギュレーションと完全に置き換えられます。

-o ブート オプションとともに一時的な管理コンフィギュレーション ファイルを指定するには、次の手順を実行します。この方法では、指定のコンフィギュレーション ファイルは、1 つのルータ

のブートで使用されます。RSPが再びリセットされると、永久的なコンフィギュレーションファイルが使用されます。

手順の概要

1. ROM モニタ モードで RSP とスタンバイ RSP を配置します。
2. **confreg**
3. ブート タイプとして 0 を入力します。
4. **reset**
5. **confreg**
6. ブート タイプとして 2 を入力します。
7. **set**
8. **bootimage -oconfig-file-path**
9. **confreg**
10. ブート タイプとして 2 を入力します。
11. **reset**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ROM モニタ モードで RSP とスタンバイ RSP を配置します。	
ステップ 2	<p>confreg</p> <p>例 :</p> <pre>rommon B1 > confreg Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 0</pre>	<p>スタンバイ RSP が制御を引き継がないようにスタンバイ RSP のコンフィギュレーションレジスタを ROM モニタモードに設定します。コンフィギュレーションレジスタを ROM モニタモードに設定するには、ROM モニタモードプロンプトで confreg コマンドを入力します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタモードで診断モードをイネーブルにできます。</p> <p>(注) コンフィギュレーションレジスタは TURBOBOOT などの環境変数ではありません。 confreg コマンドを入力するときには、等号を入力しないでください。</p>
ステップ 3	<p>ブートタイプとして 0 を入力します。</p> <p>例 :</p> <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 0</pre>	次のシステムのブート時に ROM モニタモードをイネーブルにするには、ブートタイプを 0 に設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	reset 例： <pre>rommon B2> reset</pre>	スタンバイ RSP カードのコンフィギュレーションレジスタ設定を有効にします。
ステップ 5	confreg 例： <pre>rommon B1 > confreg Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	アクティブ RSP のコンフィギュレーションレジスタを EXEC モードに設定します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタモードで診断モードをイネーブルにできます。
ステップ 6	ブートタイプとして 2 を入力します。 例： <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	次のシステムのブート時に MBI 確認モードまたは EXEC モードをイネーブルにするには、ブートタイプを 2 に設定します。
ステップ 7	set 例： <pre>rommon B2> set</pre>	現在の環境変数の設定を表示します。 (注) ファイル名は、BOOT 変数に設定されません。
ステップ 8	bootimage -oconfig-file-path 例： <pre>rommon B3>boot tftp://223.255.254.254/images/comp-asr9k-mini.vm -o /disk1:/cfgarchives/adminingold.conf</pre>	ルータをブートします。image はブート変数で示されているファイル名に置き換え、config-file-path はコンフィギュレーションファイルのパスとファイル名に置き換えます。 (注) パス名は、有効な UNIX パス名でなければなりません (スラッシュ (/) は、デバイス「disk1:/」の後ろに含める必要があります)。
ステップ 9	confreg 例： <pre>rommon B3> confreg</pre>	スタンバイ RSP のコンフィギュレーションレジスタを EXEC モードに設定します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してか

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	ら、ROM モニタ モードで診断モードをイネーブルにできます。
ステップ 10	<p>ブートタイプとして2を入力します。</p> <p>例 :</p> <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	次のシステムのブート時に MBI 確認モードまたは EXEC モードをイネーブルにするには、スタンバイ RSP でブートタイプを2に設定します。
ステップ 11	<p>reset</p> <p>例 :</p> <pre>rommon B5 >reset</pre>	新しい設定を有効にし、スタンバイ RSP カードが動作可能になるように、スタンバイ RSP をリセットします。

IOX_ADMIN_CONFIG_FILE変数を使用した、永久的な代替管理コンフィギュレーションファイルの指定

IOX_ADMIN_CONFIG_FILE=変数を使用したこの代替管理コンフィギュレーションモードは、本質的に永久的です。この変数を設定すると、このモードでは、ルータは常にこの代替コンフィギュレーションからブートでき、システムは、次のシステムのリロード時にデフォルトでコミットされたコンフィギュレーションに戻りません。



(注) IOX_ADMIN_CONFIG_FILE= 変数で指定した外部設定でルータをブートすると、デフォルトの設定は失われます。デフォルトコンフィギュレーションは、この代替コンフィギュレーションと完全に置き換えられます。

デフォルトの管理コンフィギュレーションファイルの場所を永続的に変更するには、ROM モニタモードで IOX_ADMIN_CONFIG_FILE= 環境変数にファイル名およびディレクトリパスを指定します。環境変数を指定すると、この変数の設定中にすべてのブートで指定されたファイルが強制的に使用されます。

手順の概要

1. ROM モニタ モードで RSP とスタンバイ RSP を配置します。
2. **confreg**
3. ブート タイプとして 0 を入力します。
4. **reset**
5. **confreg**
6. ブート タイプとして 2 を入力します。
7. **set**
8. **IOX_ADMIN_CONFIG_FILE=drive:path/file**
9. **sync**
10. **boot**
11. **confreg**
12. ブート タイプとして 2 を入力します。
13. **reset**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ROM モニタ モードで RSP とスタンバイ RSP を配置します。	
ステップ 2	<p>confreg</p> <p>例 :</p> <pre>rommon B1 > confreg Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 0</pre>	<p>スタンバイ RSP が制御を引き継がないようにスタンバイ RSP のコンフィギュレーション レジスタを ROM モニタ モードに設定します。コンフィギュレーション レジスタを ROM モニタ モードに設定するには、ROM モニタ モードプロンプトで confreg コマンドを入力します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタ モードで診断モードをイネーブルにできます。</p> <p>(注) コンフィギュレーション レジスタは TURBOBOOT などの環境変数ではありません。confreg コマンドを入力するときには、等号を入力しないでください。</p>
ステップ 3	<p>ブートタイプとして 0 を入力します。</p> <p>例 :</p> <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 0</pre>	次のシステムのブート時に ROM モニタ モードをイネーブルにするには、ブートタイプを 0 に設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	reset 例 : <pre>rommon B3> reset</pre>	スタンバイ RSP カードのコンフィギュレーションレジスタ設定を有効にします。
ステップ 5	confreg 例 : <pre>rommon B1 > confreg Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	アクティブ RSP のコンフィギュレーションレジスタを EXEC モードに設定します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタモードで診断モードをイネーブルにできます。
ステップ 6	ブートタイプとして 2 を入力します。 例 : <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	次のシステムのブート時に MBI 確認モードまたは EXEC モードをイネーブルにするには、アクティブ RSP でブートタイプを 2 に設定します。
ステップ 7	set 例 : <pre>rommon B2> set</pre>	現在の環境変数の設定を表示します。 (注) ファイル名は、IOX_ADMIN_CONFIG_FILE 変数に設定されます。
ステップ 8	IOX_ADMIN_CONFIG_FILE=drive:path/file 例 : <pre>rommon B3> IOX_ADMIN_CONFIG_FILE=/disk2:/cfgarchives/ admingold.conf</pre>	別の管理コンフィギュレーションファイルの絶対パスを指定するには、IOX_ADMIN_CONFIG_FILE 変数を設定します。 (注) IOX_ADMIN_CONFIG_FILE 変数は、boot コマンドを -o オプションとともに入力すると無効になります。
ステップ 9	sync 例 : <pre>rommon B4> sync</pre>	変更を保存します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	boot 例： <pre>rommon B5> boot</pre>	ルータをブートします。
ステップ 11	confreg 例： <pre>rommon B2 > confreg</pre> <pre>Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	スタンバイ RSP のコンフィギュレーション レジスタを EXEC モードに設定します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタモードで診断モードをイネーブルにできます。
ステップ 12	ブートタイプとして 2 を入力します。 例： <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	次のシステムのブート時に MBI 確認モードまたは EXEC モードをイネーブルにするには、スタンバイ RSP でブートタイプを 2 に設定します。
ステップ 13	reset 例： <pre>rommon B2 > reset</pre>	新しい設定が有効になり、スタンバイ RSP が動作可能になるように、スタンバイ RSP をリセットします。

代替 SDR コンフィギュレーションの指定

ここで説明する方法を使用して、ROM モニタモードでデフォルト SDR の代替コンフィギュレーションを指定できます。これらの手順は、デフォルト SDR の RSP カードから実行されます。



(注) SDR の詳細については、『Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Management Configuration Guide』の「Configuring Secure Domain Routers on Cisco IOS XR Software」モジュールを参照してください。



注意

ほとんどの状況では、デフォルトでコミットされた SDR コンフィギュレーションで十分です。この項で説明するオプションは、代替 SDR コンフィギュレーションが必要なまれなケースです。この方法を使用すると、システム エラーまたはダウンタイムが発生する可能性があります。

-a ブート オプションを使用した一時的な SDR コンフィギュレーション ファイルの指定

-a ブート オプションを使用したこの SDR コンフィギュレーション モードは、本質的には一時的です。このブート オプションを設定すると、このモードでは、ルータはこの代替コンフィギュレーションからブートできます。またこのコンフィギュレーション ファイルで指定されたコンフィギュレーションは実行コンフィギュレーションと永続的なコンフィギュレーションの一部になります。



(注) -a オプションで指定された外部コンフィギュレーションでルータをブートすると、システムではデフォルト コンフィギュレーションが失われます。デフォルト コンフィギュレーションは、この代替コンフィギュレーションと完全に置き換えられます。

-a ブート オプションとともに一時的な SDR コンフィギュレーション ファイルを指定するには、次の手順を実行します。この方法では、指定のコンフィギュレーション ファイルは、1つのルータのブートで使用されます。DSC が再びリセットされると、永久的なコンフィギュレーション ファイルが使用されます。

手順の概要

1. ROM モニタ モードで RSP とスタンバイ RSP を配置します。
2. **confreg**
3. ブート タイプとして 0 を入力します。
4. **reset**
5. **confreg**
6. ブート タイプとして 2 を入力します。
7. **set**
8. **boot image -a config-file-path**
9. **confreg**
10. ブート タイプとして 2 を入力します。
11. **reset**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ROM モニタ モードで RSP とスタンバイ RSP を配置します。	
ステップ 2	<p>confreg</p> <p>例 :</p> <pre>rommon B1 > confreg Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 0</pre>	<p>スタンバイ RSP が制御を引き継がないようにスタンバイ RSP のコンフィギュレーションレジスタを ROM モニタ モードに設定します。コンフィギュレーションレジスタを ROM モニタ モードに設定するには、ROM モニタ モードプロンプトで confreg コマンドを入力します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタ モードで診断モードをイネーブルにできます。</p> <p>(注) コンフィギュレーションレジスタは TURBOBOOT などの環境変数ではありません。 confreg コマンドを入力するときには、等号を入力しないでください。</p>
ステップ 3	<p>ブート タイプとして 0 を入力します。</p> <p>例 :</p> <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 0</pre>	次のシステムのブート時に ROM モニタ モードをイネーブルにするには、ブートタイプを 0 に設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	reset 例 : <pre>rommon B2> reset</pre>	スタンバイ RSP カードのコンフィギュレーションレジスタ設定を有効にします。
ステップ 5	confreg 例 : <pre>rommon B1 > confreg</pre> <pre>Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	アクティブ RSP のコンフィギュレーションレジスタを EXEC モードに設定します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプ コンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタ モードで診断モードをイネーブルにできます。
ステップ 6	ブートタイプとして 2 を入力します。 例 : <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	次のシステムのブート時に MBI 確認モードまたは EXEC モードをイネーブルにするには、ブートタイプを 2 に設定します。
ステップ 7	set 例 : <pre>rommon B2> set</pre>	現在の環境変数の設定を表示します。 (注) ファイル名は、BOOT 変数に設定されません。
ステップ 8	boot image -a config-file-path 例 : <pre>rommon B3> boot tftp://223.255.254.254/images/comp-asr9k-mini.vm -a /disk1:/cfgarchives/SDRgold.conf</pre>	ルータをブートします。image はブート変数で示されているファイル名に置き換え、config-file-path はコンフィギュレーションファイルのパスとファイル名に置き換えます。 パス名は、有効な UNIX パス名でなければなりません (スラッシュ (/) は、デバイス「disk1:/」の後ろに含める必要があります)。
ステップ 9	confreg 例 : <pre>rommon B3> confreg</pre>	スタンバイ RSP のコンフィギュレーションレジスタを EXEC モードに設定します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプ コンフィギュレーション設定を変更してか

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	ら、ROM モニタ モードで診断モードをイネーブルにできます。
ステップ 10	<p>ブート タイプとして 2 を入力します。</p> <p>例 :</p> <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	次のシステムのブート時に MBI 確認モードまたは EXEC モードをイネーブルにするには、スタンバイ RSP でブート タイプを 2 に設定します。
ステップ 11	<p>reset</p> <p>例 :</p> <pre>rommon B5 > reset</pre>	新しい設定を有効にし、スタンバイ RSP カードが動作可能になるように、スタンバイ RSP カードをリセットします。

IOX_CONFIG_FILE= 変数を使用した永久的な SDR コンフィギュレーション ファイルの指定

IOX_CONFIG_FILE= 変数を使用したこの代替 SDR コンフィギュレーション モードは、本質的に永久的です。この変数を設定すると、このモードでは、ルータは常にこの代替コンフィギュレーションからブートできます。システムは、次のシステムのリロード時にデフォルトでコミットされたコンフィギュレーションに戻りません。



(注) IOX_CONFIG_FILE= 変数で指定した外部設定でルータをブートすると、デフォルトの設定は失われます。デフォルト コンフィギュレーションは、この代替コンフィギュレーションと完全に置き換えられます。

SDR のデフォルトのコンフィギュレーション ファイルの場所を永続的に変更するには、ROM モニタ モードで IOX_CONFIG_FILE= 環境変数にファイル名およびディレクトリパスを指定します。環境変数を指定すると、この変数の設定中にすべてのブートで指定されたファイルが強制的に使用されます。

手順の概要

1. ROM モニタ モードで RSP とスタンバイ RSP を配置します。
2. **confreg**
3. ブート タイプとして 0 を入力します。
4. **reset**
5. **confreg**
6. ブート タイプとして 2 を入力します。
7. **set**
8. **IOX_CONFIG_FILE=drive:path/file**
9. **sync**
10. **boot**
11. **confreg**
12. ブート タイプとして 2 を入力します。
13. **reset**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ROM モニタ モードで RSP とスタンバイ RSP を配置します。	
ステップ 2	<p>confreg</p> <p>例 :</p> <pre>rommon B1 > confreg Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 0</pre>	<p>スタンバイ RSP が制御を引き継がないようにスタンバイ RSP のコンフィギュレーションレジスタを ROM モニタ モードに設定します。コンフィギュレーションレジスタを ROM モニタ モードに設定するには、ROM モニタ モードプロンプトで confreg コマンドを入力します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタ モードで診断モードをイネーブルにできます。</p> <p>(注) コンフィギュレーションレジスタは TURBOBOOT などの環境変数ではありません。confreg コマンドを入力するときには、等号を入力しないでください。</p>
ステップ 3	<p>ブートタイプとして 0 を入力します。</p> <p>例 :</p> <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor</pre>	次のシステムのブート時に ROM モニタ モードをイネーブルにするには、ブートタイプを 0 に設定します。

IOX_CONFIG_FILE= 変数を使用した永久的な SDR コンフィギュレーション ファイルの指定

	コマンドまたはアクション	目的
	2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 0	
ステップ 4	reset 例： rommon B3> reset	スタンバイ RSP カードのコンフィギュレーションレジスタ設定を有効にします。
ステップ 5	confreg 例： rommon B1 > confreg Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2	アクティブ RSP のコンフィギュレーションレジスタを EXEC モードに設定します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタモードで診断モードをイネーブルにできます。
ステップ 6	ブートタイプとして 2 を入力します。 例： enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2	次のシステムのブート時に MBI 確認モードまたは EXEC モードをイネーブルにするには、アクティブ RSP でブートタイプを 2 に設定します。
ステップ 7	set 例： rommon B3> set	現在の環境変数の設定を表示します。 (注) ファイル名は、IOX_CONFIG_FILE 変数に設定されます。
ステップ 8	IOX_CONFIG_FILE=drive:path/file 例： rommon B1> IOX_CONFIG_FILE=/disk2:/cfgarchives/ admingold.conf	別の SDR コンフィギュレーションファイルの絶対パスを指定するには、IOX_CONFIG_FILE 変数を設定します。 (注) IOX_CONFIG_FILE 変数は、 boot コマンドを -a オプションとともに入力すると無効になります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	sync 例 : <pre>rommon B1> sync</pre>	変更を保存します。
ステップ 10	boot 例 : <pre>rommon B1> boot</pre>	ルータをブートします。
ステップ 11	confreg 例 : <pre>rommon B2 > confreg</pre> <p>Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</p>	スタンバイ RSP のコンフィギュレーションレジスタを EXEC モードに設定します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタモードで診断モードをイネーブルにできます。
ステップ 12	ブートタイプとして 2 を入力します。 例 : <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	次のシステムのブート時に MBI 確認モードまたは EXEC モードをイネーブルにするには、スタンバイ RSP でブートタイプを 2 に設定します。
ステップ 13	reset 例 : <pre>rommon B2 > reset</pre>	新しい設定が有効になり、スタンバイ RSP が動作可能になるように、スタンバイ RSP をリセットします。

コンフィギュレーションファイルの代替の保管場所の指定

SDRのコンフィギュレーションファイルを保存する（コミットする）デフォルトの場所を変更するには、ROM モニタ モードで `IOX_CONFIG_MEDIUM=` 環境変数に場所とディレクトリパスを指定します。環境変数を指定すると、この変数の設定中に指定された場所が強制的に使用されます。

手順の概要

1. ROM モニタ モードで RSP とスタンバイ RSP を配置します。
2. `confreg`
3. ブートタイプとして 0 を入力します。
4. `reset`
5. `confreg`
6. ブートタイプとして 2 を入力します。
7. `set`
8. `IOX_CONFIG_MEDIUM=location:/path`
9. `sync`
10. `boot`
11. `confreg`
12. ブートタイプとして 2 を入力します。
13. `reset`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ROM モニタ モードで RSP とスタンバイ RSP を配置します。	
ステップ 2	<p><code>confreg</code></p> <p>例 :</p> <pre>rommon B1 > confreg Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration?</pre>	スタンバイ RSP が制御を引き継がないようにスタンバイ RSP のコンフィギュレーションレジスタを ROM モニタ モードに設定します。コンフィギュレーションレジスタを ROM モニタ モードに設定するには、ROM モニタ モードプロンプトで <code>confreg</code> コマンドを入力します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタ モードで診断モードをイネーブルにできます。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 0</pre>	<p>コンフィギュレーションレジスタはTURBOBOOTなどの環境変数ではありません。confreg コマンドを入力するときには、等号を入力しないでください。</p>
ステップ 3	<p>ブートタイプとして 0 を入力します。</p> <p>例：</p> <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 0</pre>	<p>次のシステムのブート時にROM モニタモードをイネーブルにするには、ブートタイプを 0 に設定します。</p>
ステップ 4	<p>reset</p> <p>例：</p> <pre>rommon B3> reset</pre>	<p>スタンバイ RSP カードのコンフィギュレーションレジスタ設定を有効にします。</p>
ステップ 5	<p>confreg</p> <p>例：</p> <pre>rommon B1 > confreg Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	<p>アクティブ RSP のコンフィギュレーションレジスタをEXECモードに設定します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブートタイプ、ブートタイプコンフィギュレーション設定を変更してから、ROM モニタモードで診断モードをイネーブルにできます。</p>
ステップ 6	<p>ブートタイプとして 2 を入力します。</p> <p>例：</p> <pre>enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	<p>次のシステムのブート時に MBI 確認モードまたは EXEC モードをイネーブルにするには、アクティブ RSP でブートタイプを 2 に設定します。</p>
ステップ 7	<p>set</p> <p>例：</p> <pre>rommon B3> set</pre>	<p>現在の環境変数の設定を表示します。</p> <p>(注) ファイル名は、IOX_CONFIG_MEDIUM 変数に設定されます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	IOX_CONFIG_MEDIUM=location:/path 例 : <pre>rommon B1> IOX_CONFIG_FILE=/disk2:/cfgarchives/ admingold.conf</pre>	別の場所を指定するには、IOX_CONFIG_MEDIUM 変数を設定します。 Cisco ASR 9000 シリーズ ルータでは、 <i>location</i> を <i>disk0</i> または <i>disk1</i> で置き換えます。 <i>path</i> を、コンフィギュレーション ファイルを保管するディレクトリへのパスで置き換えます。 (注) デフォルトでは、ディレクトリ <i>/disk0:/usr</i> は、代替コンフィギュレーション とその他のユーザー ファイルを保管するために使用できます。 <i>/disk0:/config</i> から始まるディレクトリ パスは使用しないことを推奨します。このパスは、システム ファイルを保管するために使用されるためです。
ステップ 9	sync 例 : <pre>rommon B1> sync</pre>	変更を保存します。
ステップ 10	boot 例 : <pre>rommon B1> boot</pre>	ルータをブートします。
ステップ 11	confreg 例 : <pre>rommon B2 > confreg Configuration Summary (Virtual Configuration Register: 0x1920) enabled are: console baud: 9600 boot: the ROM Monitor do you wish to change the configuration? y/n [n]: y enable "diagnostic mode"? y/n [n]: n change console baud rate? y/n [n]: n change the boot characteristics? y/n [n]: y enter boot type: 0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2</pre>	スタンバイ RSP のコンフィギュレーション レジスタを EXEC モードに設定します。また、コンソールのボーレート、ブート特性、ブート タイプ、ブート タイプ コンフィギュレーション 設定を変更してから、ROM モニタ モードで診断モードをイネーブルにできます。
ステップ 12	ブート タイプとして 2 を入力します。 例 : <pre>enter boot type:</pre>	次のシステムのブート時に MBI 確認モードまたは EXEC モードをイネーブルにするには、スタンバイ RSP でブート タイプを 2 に設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	0 = ROM Monitor 2 = MBI Validation Boot Mode [0]: 2	
ステップ 13	reset 例： rommon B2 > reset	新しい設定が有効になり、スタンバイ RSP が動作可能になるように、スタンバイ RSP をリセットします。

その他の関連資料

ここでは、ROM モニタに関連する参考資料を紹介します。

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
SDR および管理プレーン コンフィギュレーション	『Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Management Configuration Guide』の「Configuring Secure Domain Routers on Cisco IOS XR Software」モジュール

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
シスコのテクニカル サポート Web サイトでは、製品、テクノロジー、ソリューション、技術的なヒント、およびツールへのリンクなどの、数千ページに及ぶ技術情報が検索可能です。Cisco.com に登録済みのユーザは、このページから詳細情報にアクセスできます。	http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html

